

税を納める喜び

武蔵野音楽大学附属高等学校

一年 山崎 詩歩

今でも地面に揺れを感じるとあの日のことを鮮明に思い出します。二〇十一年三月十一日の東日本大震災です。当時仙台に住んでいた私は、母と弟と自宅で大きな揺れを感じました。まだ六才だった私と三才だった弟は怖くて母にしがみつきたくても母の所まで行けず、母が揺れで転びそうになりながらも私と弟を抱きかかえて自宅が一番安全な和室へ連れて行ってくれました。リビングの食器棚からは中の食器が大きな音をたてて次々に外へ飛び出し割れて、照明器具は大きく揺れて天井にたたきつけられ粉々になり、あらゆるガラスの破片が私たちのすぐ目の前まで飛んできました。その時の恐怖は今でも忘れられません。大きな揺れが何度か続いて暗くなってきた頃、兄の友達とそのお母さんが小学校から兄を連れて帰ってきてくれて一緒に近くの中学校に避難しました。県外に出張していた父と再会できたのは数日後でした。自宅マンションは半壊でマンションの内外部の様々な所に亀裂が生じていました。あの時私はまだ幼かったのです、その後どのように復旧されていたのかは覚えていません。

しかし中学の時災害について調べる授業があり、復興特別税というものがあることを知りました。東日本大震災からの復興に当てる

財源の確保を目的として所得税、住民税、法人税に上乘せするとい
う形で徴収されています。私は、税金によって元の生活を送れるよ
うになっていたことを知り、感謝の気持ちでいっぱいになりました。
また、私達の父や母が払っている税金がこのような不慮の災害にも
役立っているということを知り少し嬉しくなりました。震災時にと
てもお世話になった消防、警察、自衛隊、医療も税金により成り立
っており、私達の暮らしに税金がいかに重要であるかということ
を改めて実感しました。

最近では、大雨による被害で平穏な日常生活が奪われ避難生活を
余儀なくされている方々の様子をテレビで見ていると胸がとても苦
しくなります。でもきちんと納税することで被害に遭われた方々の
役に立てると思うと、私も近い将来しっかりと納税できる大人にな
りたいと思いました。

私は、税の使い道についてもっと理解するべきだと思いました。
つい、税を払うことだけに目がいつてしまいがちで税について何と
なく悪いイメージを持っていましたが、復興特別税を知ったことで
税によって充分に支援を受けていたことや困っている方々の役に立
っていることが分かりました。もっと税の使い道を充分に理解する
ことができたら、税を納めることに喜びを感じることができると思
いました。

これからは、税について積極的に理解できるように勉強してい
きたいです。